

「スター（才能開発ルーム）」の運営を特別支援教育推進の追い風に

東京都は、「特別支援教育の第三次計画」を平成22年度に立て、個々へのきめの細かい特別な支援を目的とした「特別支援教室」を全ての小学校に設置することを決めました。この間、様々な地区でモデル事業を行い、成果を広げるとともに、平成28年度からは、都内全ての市区町村でも行うよう働きかけてきました。これを受け、練馬区は平成28年度から「特別支援教室」の設置を段階的に始め、平成30年度には、全ての小学校に設置（中学校は平成31年度から）されました。

少々堅苦しい話になってしまいましたね。特別支援教室と聞くと「授業で十分に理解ができなかった児童への補充的な意味合い」と受け取られがちなのですが、実は、そうではありません。

わたしは、以下の教育理念、方針に立ち、この教室を運営していく考えです。

○全てのお子さん（大人も、私も、みなさんも）は、何らかの発達の特性をもっています。

○その中でも発達の「凸凹」が比較的大きなお子さんは、少なからず困り感をもち一斉授業を受けることになります。

○「凸凹」があるということは、より際立つ能力も有しているということです。

○「スター」では、その能力をさらに高めていくことも目指します。

○一斉指導の中での困り感を改善するためには、「コミュニケーション能力」を身に付けることが一番の近道です。

○ソーシャルスキルトレーニングなど個に応じた個別や小集団の指導を受けることにより、「コミュニケーション能力」が高まり、集団の中で際立つ能力をさらに発揮できるのではないかと考えています。

○時間の目安としては、週の内、1, 2時間程度、クラスを離れて、上記のような専門的な支援を受けることになります。

現代は、「天才が育ちにくい時代」とも言われています。私の夢の部分も入っていますが、「トーマス・エジソン」しかり、「トム・クルーズ」しかり、「スティーブ・ジョブズ」しかり、発達に特性をもち、世界に貢献した（する）天才たちが、この教室から輩出されるという高い理想をもち楽しく前向きに取り組みを進めてまいります。